

合併1周年特別企画

座談会

テーマ 「私の神崎市」

平成19年7月11日（水）、神崎市議会委員会室において開催した合併1周年特別企画の座談会の模様をご紹介します。

発言者 小林 正明さん（神崎三丁目区長〔小林薬局代表取締役〕）
佐藤和歌子さん（NPO法人 森をつくろう理事長）
佐藤 彩香さん（佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校3年〔ソフトボール部〕）

司会者 福田 清道さん（神崎市議会議員、議会広報編集特別委員会委員長）

司会者 みなさん、こんにちは。本日は合併一周年の特別企画ということで、三人の市民の方に神崎市に対する自分の思いとか、自分のやっている活動について、お話をしていただきたいと思えます。

小林さん 少子高齢化社会という重大な問題があります。私の住んでいるところでも驚くほどの高齢化社会です。地域に子供もおりませんし、皆にどう活力を出してもらおうかということにいつも苦慮している訳です。自分の住んでいる町がいかによい町かということに自覚できるようなしていけばいいんじゃないか、と日頃そういうふうに思っております。

佐藤和歌子さん やはり合併してこれからだんだん機能が全て中央に移っていくとなると、果たして、この脊振というところに人が住むようになるのかな、という不安感が、私の一番身近な問題です。脊振、神崎、千代田の共通点というやはり城原川だと思えます。一つの川が源流から河口まで一つの市で終わっているという全国でも特異な環境にいます。上流、中流、下流の交流が成されていくことがこれから先、若い人たちがこの市で活躍していく中では必要なことではないかと思えます。

佐藤彩香さん 正直、自分には合併する意味がよくわかりませんでした。そこで、学生でも合併の意味がわかるような場が何か設けられると、これからの神崎市もよくなると思います。

司会者 ありがとうございます。今それぞれ、意見を出されましたので、自由に意見を交換していただきたいと思えます。

小林さん なんととっても人的交流がどう行われるか、という場合に、なかなか千代田と神崎、脊振につながる道がどうも整備されていない、これが一番根幹じゃないかな、という気がしま



佐藤和歌子さん

す。また七月から八月にかけて、千代田も神崎も脊振も祭りが多くございますが、各祭りの案内はありますけど、全体的にどういふふうに祭りをみんな楽しんでいくか。そこに人的交流ができていくということから出発していくと少し楽しい神崎市ができるんじゃないかと思えます。

は時間を使ってもいいものを、後世に残して行きたいと考える、その中で何が大事か、何を残していくべきか、自分はどうあるべきか、という大切なことを忘れてはいけないんじゃないか、と思うんですが。

と

司会者 今の意見はかなり抽象

的な意見かと思うんですが、彩香さん、どうですか、変わって

いないといわれましたが、どういふ点が変わっていないと思えますか。

佐藤彩香さん 部活があると町

全体の風景を見る余裕がなくて、通学の時にしか町の風景を見る

チャンスがありません。その風景の中でも何が変わったのか、合併して大きく変わるのとは時間がかかると思うけど、これから変わるために、市が何かしているところがあるのかな、

と思っています。

司会者 小林さん

は神崎の三丁目にお住まいで高齢化の問題をさっき言われましたが、神崎の三丁目、町の

中心街の現職の世

話役としての悩み

も色々おありにな

ると思うので、その辺りを率直に語っていただきたいと思います。

小林さん 僕たちの町では子供

がいなくてどうしようもないです。ですから隣の集落の方に参加しませんか、と呼びかけをしながらか祭りというものの楽しみ、また、その中で親子のふれあいというものも大切にしなければいけないということを痛切に感じています。子供みこしも今年で三十三回目です。これも、集落単位の祭りみたいになっていくけれど、これはもう神崎の祭りとして脊振の方も千代田の方



小林正明さん

も気軽に参加できる祭りとして制度を整える必要があるんじゃないかと考えています。

一人一人の住民がこの合併を機に自分の町を見直して、そしてすばらしい新しい町を自分たちでつくるんだ、という気概を持っていろんな活動が成されている、そういうところがやはり発展していくんだらうと思えます。

佐藤和歌子さん 町や自分の住

んでいるところをよくしていこうという意味ではこれから先、ビジョンの方が先にきて然るべきじゃないのかな、という気が



佐藤彩香さん

します。人と人との心のつながりや、相手を分かる優しき、相手に説明をする能力、人を説得する力、というのはやはり教育だと思えます。「家庭」、「地域」、「社会」、どういうレベルであっても教育というものを大切にしていかなければ将来的には上手いかなんじやないのかな、という気がします。

司会者 では高校生の佐藤彩香さん、あと一年したら社会人になるわけですが。

佐藤彩香さん 高校で習っている勉強で、今後の生活に何かつながるものがあるのかが分らない。

ない。何のために外国のことも勉強するのかもわからない。日本の歴史を勉強しても自分たちの生活でこれからの生活に役にたつものなのかなあと、いつも疑問に思っています。

司会者 和歌子さんは、今NP Oで森のことも色々取り組んでおられますけど、そういうところで今後皆さんに考えていただきたいな、ということなどありましたらお願いします。

佐藤和歌子さん 日本の山は七五%、佐賀でも八〇%が「民の力」で守られてきた民有林が大きく存在しています。これから日本の山を継続して守っていくにはその「力」が必要で、その方々が今、疲労困憊し、先が見えないのが現状です。そんな中で社会貢献という言葉で、企業が植林をして、山に貢献してい

る、地球環境のために私たちは植林をしますというキャッチフレーズを出されますが、そのところが、逆に、山で生活をしている人を山で生活できなくしているという現状を知ってもらいたい。日本の山を守っていくためにはどうすればいいか、ということ情報を提供機関として活動していければ、と思って立ち上げました。

小林さん 今、私は大きな夢をもってやっております。何かとありますが、この世の中から病気を全部なくそうということ

す。その基本のキーワードが「薬食同源」、薬と食べ物は一緒なんですよ、という謎解きです。

司会者 はい、ありがとうございます。彩香さんが中学時代からスポーツに打ち込んできた思いを聞きたいと思えます。

佐藤彩香さん 小学校の時は少年野球に入っていて、その流れでソフトボールをしたくて入部しました。やっぱり野球とか、ソフトボールとか一人ではできないスポーツで、みんなで協力することで強くなるし、みんなで一つの目標に向かって練習し



佐賀女子高のソフトボール部は前年度インターハイで全国優勝



たりするので、チームの和も深まるし、高い目標に向かって頑張ることが出来ます。部活に入って、その人間関係が難しいこともたくさんあるけど、そこで仲が深まったり、信頼できる人を見つけれられるので、苦しいこともあるけど、楽しいこともあるし、みんなでそういうことを分かり合えるみたいなのが、部活動に入ってよかったことです。

司会者 彩香さん、就職についてどう考えていますか。

佐藤彩香さん 最初は県外に就職して、色々なことに挑戦したり、視野を広めたいな、とも思ってたんですが、やはり佐賀が好きで、千代田もいいところだし、離れたくない部分もあったので県内就職希望でがんばりたいな、と思っています。

司会者 それでは和歌子さん、いつ頃こちらに帰ってみようと思われたんですか。

佐藤和歌子さん 私は、弱者の

立場にたった弁護士になりたい、そう思って福岡で三年ほど司法試験の勉強をしていたんですが、両親にこれから先の人生どうしていけばいいか相談をした時に、父の言った言葉が『自分にしかやれないことがあるかもしれないからそれを模索してはどうだ』といわれて、このふるさとに残って脊振の面積のほとんどを占める山林を守っていくことが、今本当に大事な事じゃないかなと思えて脊振に残ることを決意しました。

司会者 それでは、自然、文化、産業、教育も含めて夢を語っていただきたいと思

います。
小林さん 櫛田宮の裏に「神幸の発祥の地」と書いてありますけれど、

神様の神に幸せと書いて、「神幸」、
それがなまって神

埼となったように

す。そういうふうになんかいいの土地柄だと私は思っています。三丁目の元郵便局跡（現在の三丁目公民館）は昔、江戸から来る時の迎賓館があったところなんです。そこにそれなりに文化的な施設をつくりながら、多くの人達が神埼に学びに来る拠点にできたなら、という夢をもっています。

佐藤和歌子さん 日本人としてやはりふるさとで生きていくと考えた時に、そこに伝統的に残る一次産業の良さをもう一回みんな考えて直していく必要があるんじゃないかと。林業もその



司会者 福田議会広報委員長



一つだと思えますので林業の良さっていうのをこれまでとは違う形で波及していければいいなと思います。

司会者 高校生の佐藤彩香さんは、こういう大人ばかりの場に参加されるのはおそらく初めてだろうと思いますが、参加された感想をお聞かせください。

佐藤彩香さん はじめてこういう大人の人に囲まれて話す機会をもらったのですが、聞いていても何をしゃべられているのか、難しく、よくわかりませんでした。でも皆さんが話されていたことは、神崎市のことを考えて話されていることなんだな、と感じて。自分が大人になって、そういうふうに神崎市のことを深く考えられるような人になれたらいいな、と思いました。

司会者 和歌子さんは最近、アメリカとカナダに行って活動をされていますがそういう経験を交えたところでの話をしていただければと思うんですけども。

佐藤和歌子さん やはり神崎市になってみて、今までは脊振だけが私の故郷だったんですけど、神崎市全体が自分の故郷のように思えてきたことは事実で。この神崎市を自分の故郷として愛し続けていきたいな、と思います。やはりここがあると、自分がここに帰ってこられる、自分には戻るところがある、というの人間として一番うれしいことじゃないかと思えます。

司会者 小林さん、具体的にCSOを立ち上げておられますけれども、それが神崎市全体の中でどういうふうに位置づけられているかお尋ねしたいんですが。

小林さん CSOというのは市民の団体みたいなものですけど、NPOとか、婦人会とかそういう団体を全部ひっくるめたのがCSOなんです。同じ神崎市の市民として、一つ一つの活動を助け合いながら、その人たちの成長をお互いに協働し合う市民をつくっていききたいと思って



座談会参加者

お断り
今回は参加者のうち、議長及び編集委員の発言はページの都合により割愛させていただきました。

います。
司会者 本日は本当にありがとうございました。

※CSO…civil society organizations
(市民社会組織)の略。
※NPO…nonprofit organizationの略で広義では非営利団体のことであり、狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。